

横大路運動公園整備実施計画(案)

目次

1	目的及び計画地の概要	1
2	各種データの整理	2
3	整備方針(案)	6
4	整備実施計画(案)	7

平成26年3月 京都市

1 目的及び計画地の概要

(1)目的

広域的な大規模スポーツ施設整備の推進を図るため、横大路運動公園、西京極総合運動公園及び三川合流地域等におけるスポーツ施設整備については、府市協調により取組を進めていくこととしている。

横大路運動公園については、利用団体の意向等を踏まえつつ、府内の準広域・準基幹的なスポーツ施設として再整備を図るための整備実施計画(案)を策定するものである。

(2)計画地の位置及び概要

横大路運動公園(伏見区、面積 163,000 m²)は、ごみ埋立地跡を利用した運動公園で、昭和49年3月に都市計画決定を行い、昭和54年度から都市公園整備事業として施設整備を行い、昭和57年4月に開園した。

その後、昭和62年には体育館が完成し、現在では、グラウンド4面、体育館、アーチェリー場等からなる運動公園として、京都市域南部に位置する特性から京都市民だけでなく、府南部の隣接市町の住民の方々にも幅広く親しまれるスポーツ拠点となっている。

平成19年3月には、京都の南の玄関口と言える横大路地域の再生を目指すまちづくり計画「伏見ルネッサンスプラン」が策定され、横大路運動公園周辺については、南部クリーンセンター、水環境保全センターなど環境関連施設が多数立地する地域特性を生かし、世界最先端の楽しく学べる環境教育の拠点をはじめ、環境共生型都市・京都のシンボルゾーンとしての役割を果たす地域となるよう整備を進めるとの取組方向が掲げられている。



(3)計画地の現況

■第1・第2グラウンド(軟式野球等) ■園内通路の様子



■硬式野球グラウンド



■ブルペン(硬式野球グラウンド横)



■公衆トイレ



■駐車場



■アーチェリー場



■遊戯施設エリア(遊具、芝生広場等)



■第3グラウンド(少年野球、ソフトボール等)



2 各種データの整理

(1) 現況利用状況

1) 施設の稼働状況〔稼働状況を平日・休日に分けて整理(H24年度実績)〕

■横大路運動公園全体

分類	稼働率
平日	22.4%
休日	85.2%

■硬式野球グラウンド

分類	稼働率
平日	52.0%
休日	96.8%

■第1・第2グラウンド

分類	稼働率
平日	11.0%
休日	79.4%

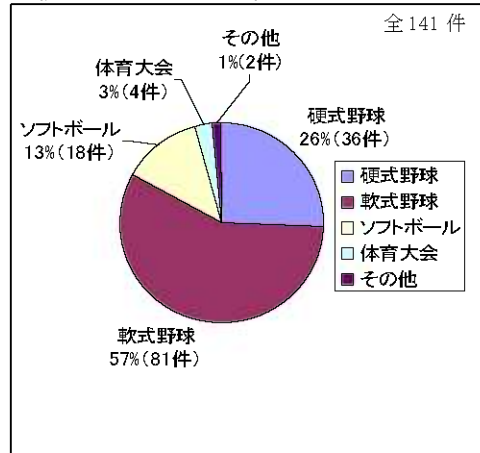
■第3グラウンド

分類	稼働率
平日	4.1%
休日	79.5%

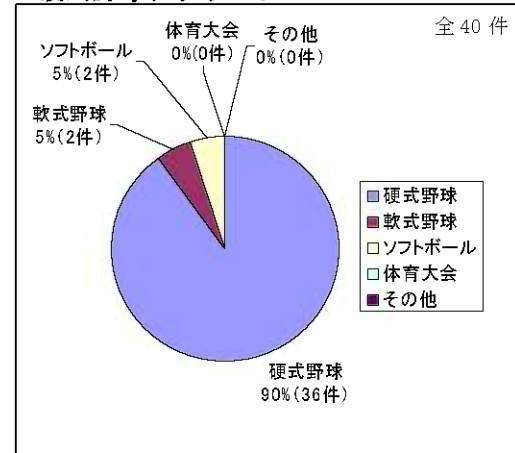
・横大路運動公園の稼働状況は、公園全体で「平日 22.4%」、「休日 85.2%」であり、休日が非常に高い。

2) 施設の競技種目別利用状況(平成24年度施設利用予約より)

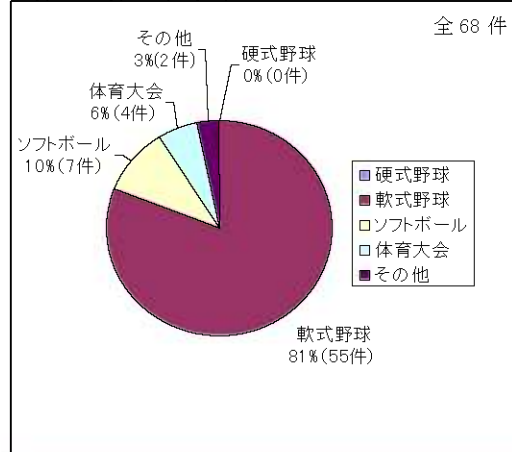
■横大路運動公園全体



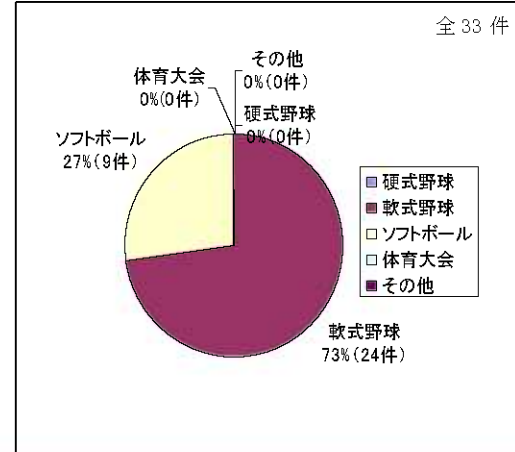
■硬式野球グラウンド



■第1・第2グラウンド



■第3グラウンド



- ・横大路運動公園全体では、軟式野球の利用が全体の 57%を占めており、次いで硬式野球が 26%、ソフトボールが 13%、体育大会が 3%となっている。
- ・硬式野球グラウンドでは、硬式野球の利用が 90%と大部分を占めている。
- ・第1・第2グラウンドでは、軟式野球が全体の 81%を占めており、ソフトボールや体育大会の利用も見られる。
- ・第3グラウンドでは、軟式野球が全体の 73%を占めており、次いでソフトボールが 27%と他のグラウンドよりも高い利用率となっている。

3) 主な大会利用実績

■硬式野球グラウンド

- ・全日本総合男子ソフトボール選手権大会
- ・少年硬式野球全日本選手権大会京都予選
- ・日本少年野球京都府支部春季・秋季大会 など

■第1・第2グラウンド

- ・京都府知事旗選手権少年野球大会
- ・西日本軟式野球大会 1・2 部大会など

(2) アンケート調査結果

施設の利用現状及び整備内容に関する参考意見を把握するため、横大路運動公園を利用されている競技団体及び各利用者それぞれに対してアンケート調査を実施した。

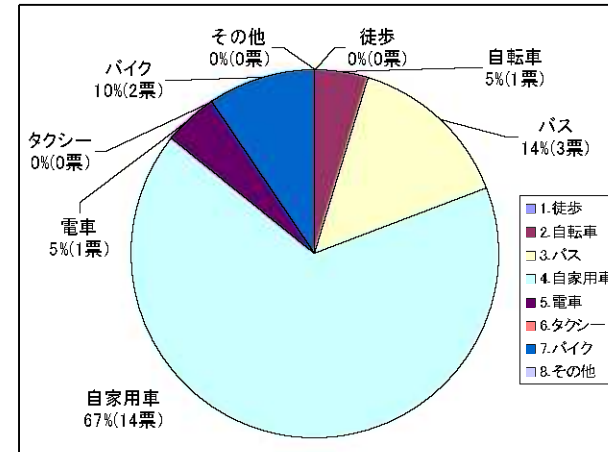
1) 利用団体アンケート

■調査概要

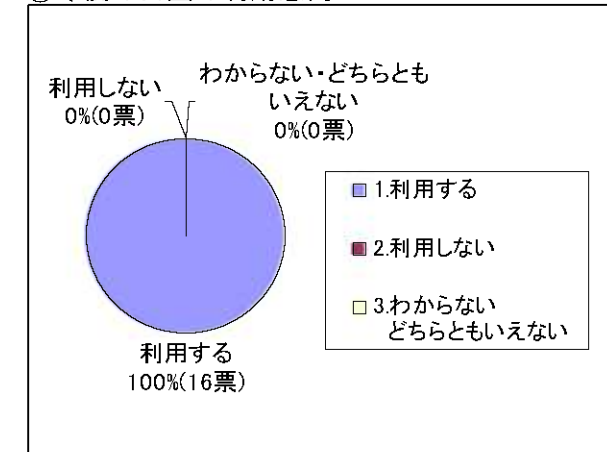
- ・実施期間:平成 25 年 10 月 31 日～平成 25 年 11 月 11 日
- ・調査対象:平成 24 年度に横大路運動公園を利用したことのある競技団体等
- ・配布方法:郵送による配布
- ・回収数:配布 25 票、回収 16 票(回収率 64.0%)

■調査結果

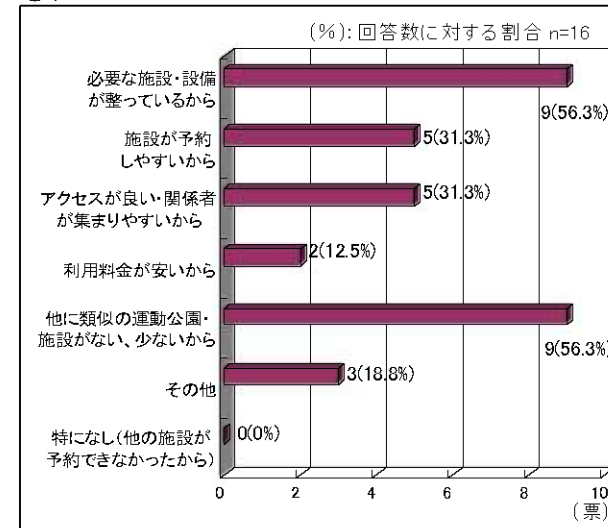
①交通手段



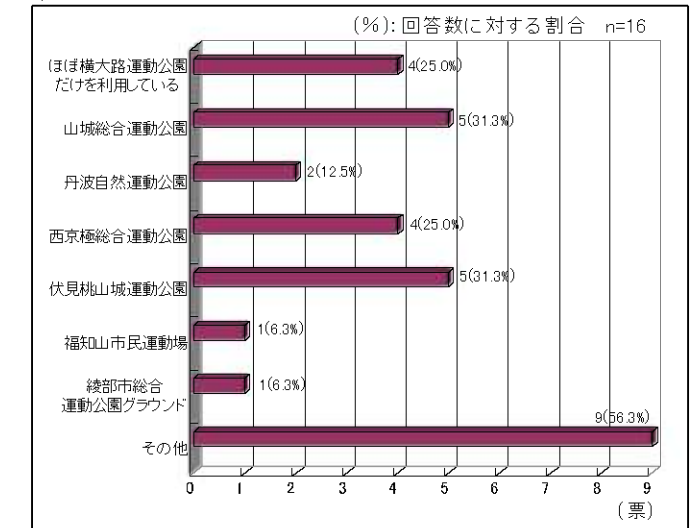
②今後の公園の利用意向



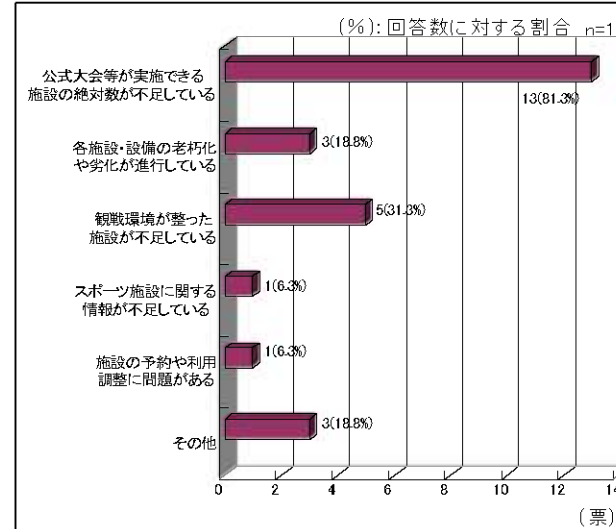
③横大路運動公園の利用理由



④他の公園利用の状況とその理由



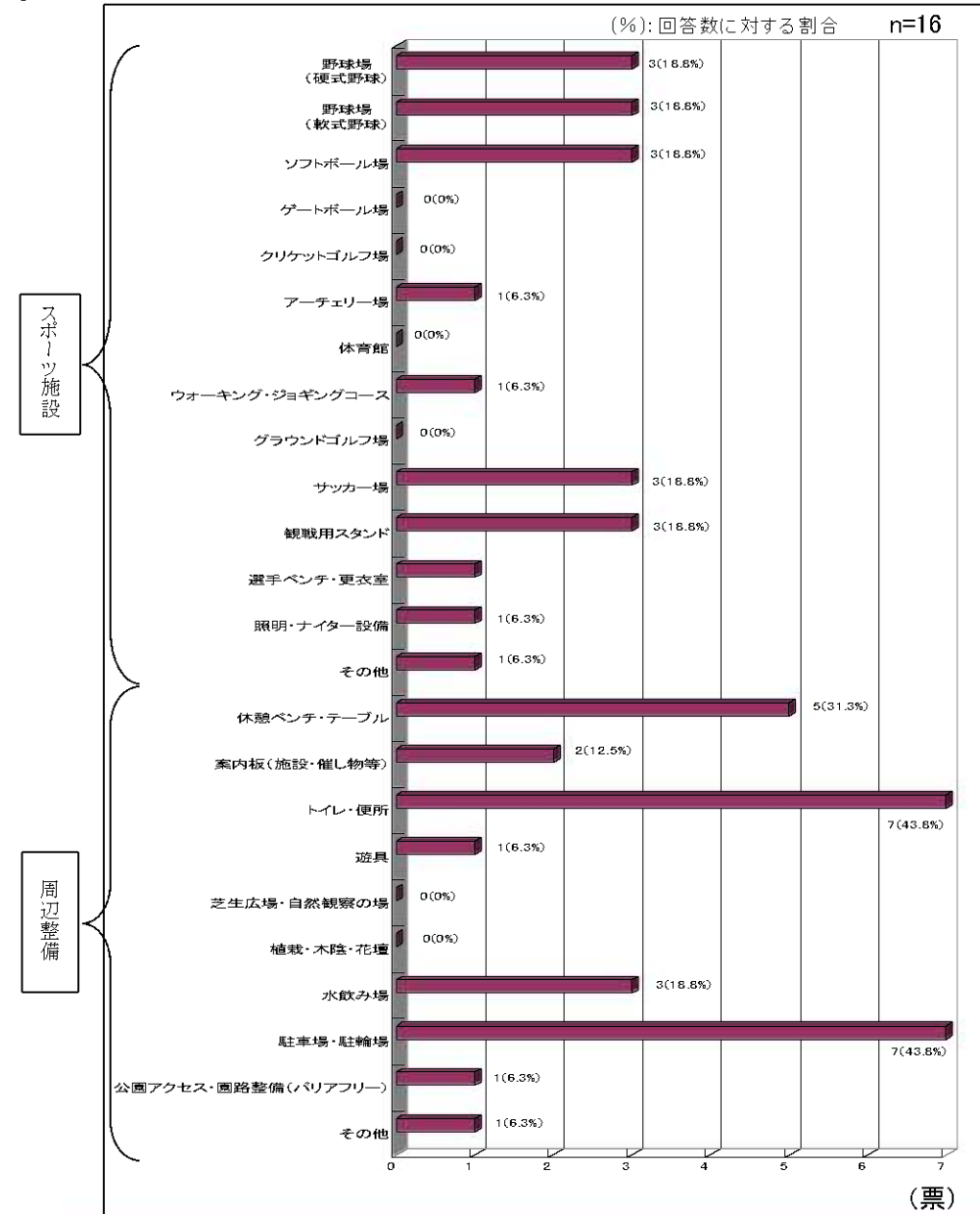
⑤府内・市内での大会実施において不満・不便に感じること



⑥大会会場として今後必要な施設・機能



⑦充実・改善又は、新たに導入を希望する施設・機能



■交通手段

・「**自家用車**」が全体の 67%と最も多く、次いで「**バス**」が 14%となっている。

■今後の公園の利用意向

・利用した全団体が今後も利用する予定であると回答している。

■横大路運動公園を利用している理由

・「**必要な施設・設備が整っているから**」(56.3%), 「**他に類似の運動公園・施設がない、少ないから**」(56.3%) が最も多い。

■横大路運動公園以外で、大会・試合等によく利用している施設

・「**伏見桃山城運動公園**」(31.3%), 「**山城総合運動公園**」(31.3%), 「**西京極総合運動公園**」(25.0%) が多く利用されている。

・横大路運動公園以外の施設を利用する主な理由は、「横大路運動公園だけでは大会開催における施設が不足している」、「京都市内で近畿・全国大会・予選会を行う施設が少ない」ことなどが挙げられる。

■京都市内または府内で各種大会・試合等を実施するに当たり不満や不便に感じること

・「**公式大会等が実施できる施設の絶対数が不足している**」(81.3%) が最も多く、次いで「**観戦環境が整った施設が不足している**」(31.3%) が多い。

■大会会場として今後必要な施設・機能

・「**便所**」(56.3%), 「**駐車場・駐輪場**」(56.3%) が最も多く、次いで「**大会本部機能**」(43.8%), 「**観戦用のスタンド**」(31.3%), 「**運営諸室**」(25.0%) の順で多い。

■充実・改善又は、新たに導入を希望する施設・機能

・スポーツ施設においては、「**野球場(硬式野球)**」(18.8%), 「**野球場(軟式)**」(18.8%), 「**ソフトボール場**」(18.8%), 「**サッカー場**」(18.8%), 「**観戦用スタンド**」(18.8%) が多い。

・周辺整備においては、「**トイレ・便所**」(43.8%), 「**駐車場・駐輪場**」(43.8%) が最も多く、次いで「**休憩ベンチ・テーブル**」(31.3%) が多い。

2)利用者アンケート

■調査概要

・実施日:
平成 25 年 10 月 27 日(日),
11 月 17 日(日)

・調査対象:

横大路運動公園の利用者

・配布方法:

施設利用者へのヒアリング

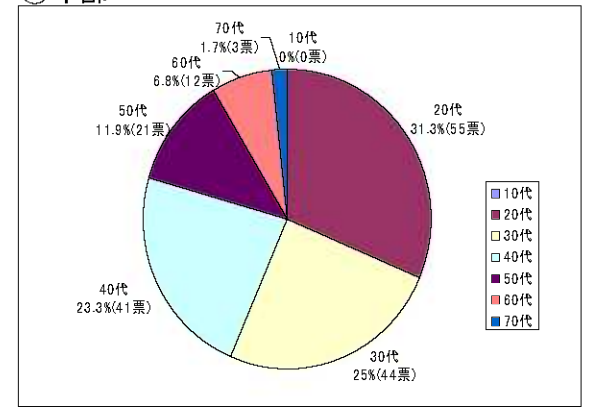
・回答数:176 票

■調査結果

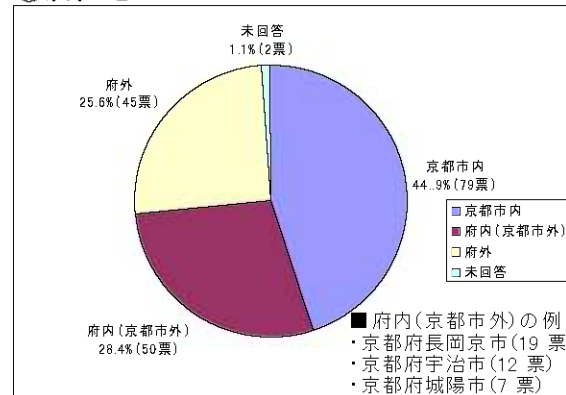
①性別



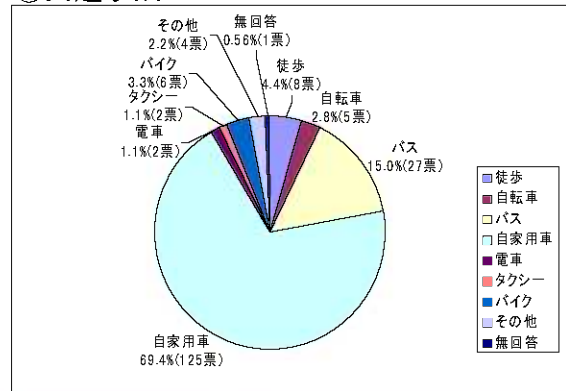
②年齢



③居住地



④交通手段



■利用者の性別

・回答者の 71.6%が「**男性**」、27.3%が「**女性**」である。

■利用者の年齢

・回答者のうち「**20 代**」が全体の 31.3%と最も多く、次いで「**30 代**」(25.0%)、「**40 代**」(23.3%)の順で多い。

■利用者の居住地

・回答者の 44.9%が京都市内の利用者であり、28.4%が府内(京都市外)からの利用者である。また、府内(京都市外)からの利用者では、「**長岡京市**」(19 票)が最も多く、次いで「**宇治市**」(12 票), 「**城陽市**」(7 票)の順で多い。なお、京都府外からの利用者は全体の 25.6%である。

■利用者の交通手段

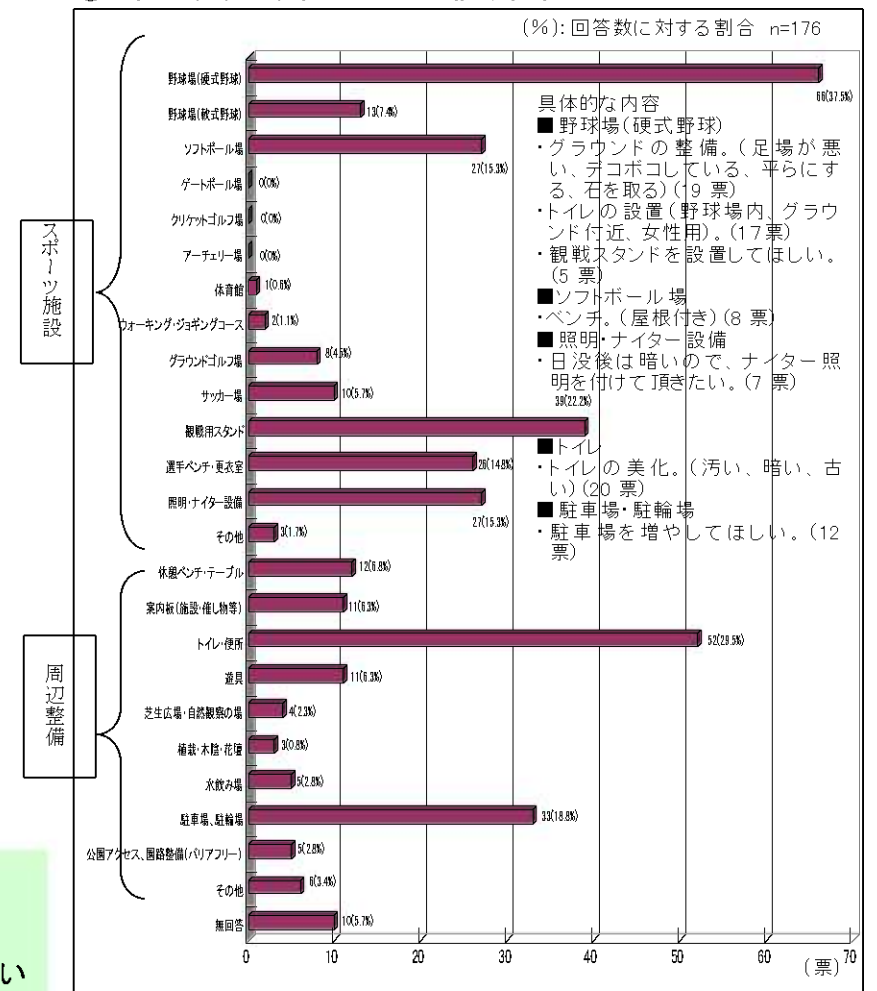
・「**自家用車**」が全体の 69.4%と最も多く、次いで「**バス**」が 15.0%となっている。

■公園の充実・改善について

・横大路運動公園のスポーツ施設において充実・改善または新たに導入を希望する施設・設備は、「**野球場(硬式野球)**」(37.5%)が最も多く、ついで「**観戦用スタンド**」(22.2%), 「**ソフトボール場**」(15.3%), 「**照明、ナイター設備**」(15.3%), 「**選手ベンチ・更衣室**」(14.8%)が多い。

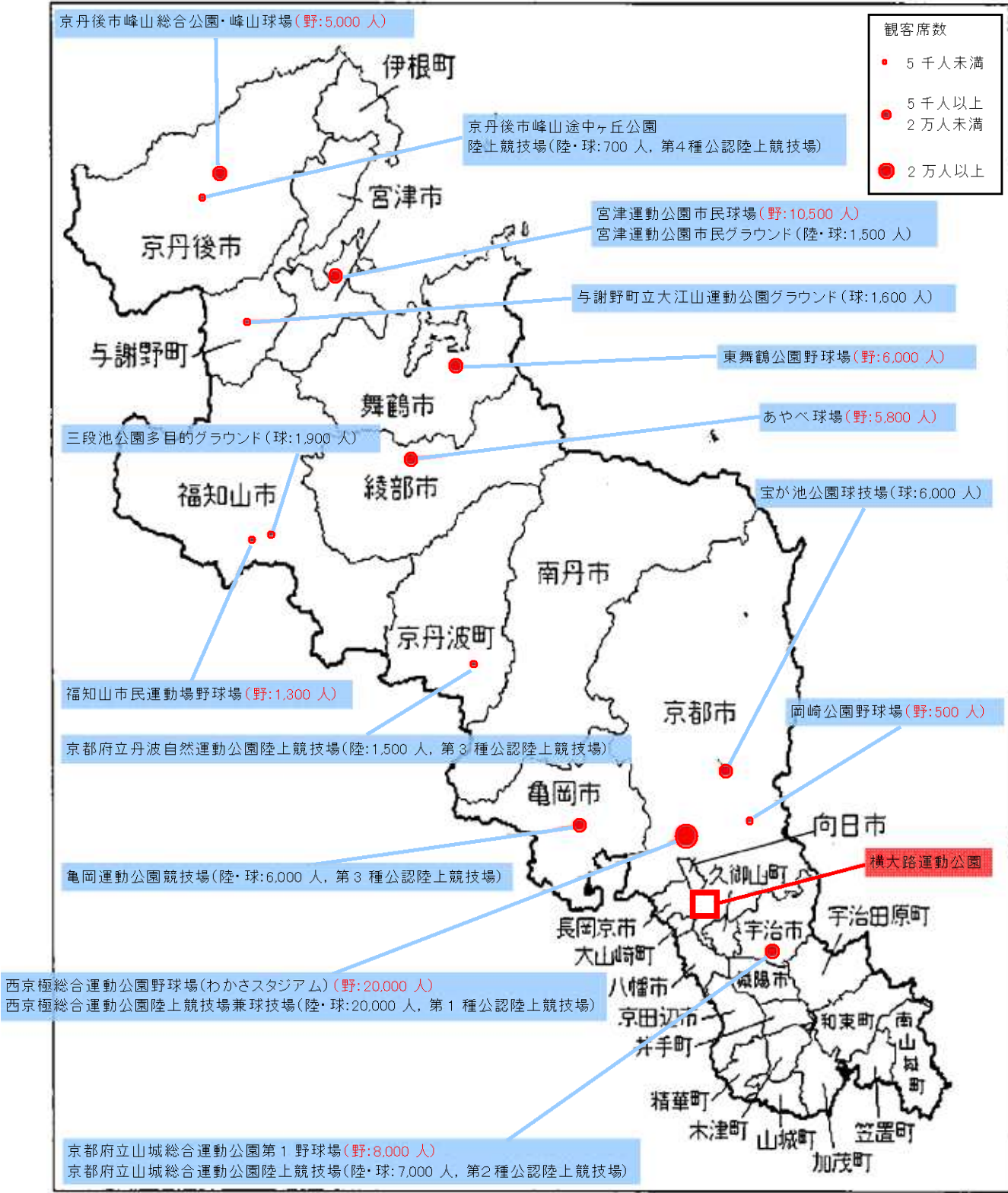
また、周辺整備において充実・改善または新たに導入を希望する施設・設備については、「**トイレ・便所**」(29.5%)が最も多く、次いで「**駐車場・駐輪場**」(18.8%), 「**休憩ベンチ・テーブル**」(6.8%)の順で多い。

⑤公園の充実・改善について(複数回答)



(3)京都府内のスポーツ施設

公共が所有・運営する「陸上競技場」「球技場・サッカー場」「野球場」のうち500名以上の座席・定員を有する施設を以下に整理する。ただし、小中学校、大学、企業の施設は除く。



(4)近畿圏の野球施設(高校野球予選会場)

各府県における広域的な野球大会利用の一例として、高校野球予選を取り上げ、会場となっている各施設の概要を以下に整理する。

都道府県	名称	グラウンド	観覧席	その他特記設備	屋根
京都府 (78チーム)	わかさスタジアム京都	【両翼】100m 【中堅】117m	内野席:13,300人 外野席:6,700人	ドーピングルーム, 屋内練習所, バットスイング室, 浴室	あり (バックネット)
	太陽が丘球場	【両翼】91m 【中堅】122m	内野席:1,400人 外野席:6,600人	-	なし
	福知山市民野球場	【両翼】91m 【中堅】118m	内野席:1,300人	-	なし
	宮津運動公園市民球場	【両翼】92m 【中堅】120m	収容人数10,500人	-	なし
	あやべ球場	【両翼】101m 【中堅】123m	内野席2,500人 外野席3,300人	-	なし
	東舞鶴公園野球場	【両翼】92m 【中堅】120m	収容人数6,000人	-	なし
大阪府 (77チーム)	舞洲ベースボールスタジアム	【両翼】100m 【中堅】122m	内野席:8,000人 外野席:2,000人	-	なし
	豊中ローズ球場 (豊中豊島公園野球場)	【両翼】95m 【中堅】115m	内野席:2,000人 外野席:無し	-	あり (バックネット)
	日本万国博覧会記念公園野球場	【両翼】90m 【中堅】120m	内野席:3,375人 外野席:4,325人	-	なし
	南港中央野球場	【両翼】98m 【中堅】122m	収容人員:10,000人	ブルペン, バットスイング室	あり (バックネット)
	久宝寺緑地野球場	【両翼】91.4m 【中堅】120m	収容人員:2,500人	-	なし
	住之江公園野球場	【両翼】90m 【中堅】110m	収容人員:3,211人	-	なし
	京セラドーム大阪	【両翼】100m 【中堅】122m	収容人員:37,450人	電光掲示板4基(メインビジョン, サブスコアボード, サイドビジョン2基) ブルペン, バットスイング室	あり (ドーム)
滋賀県 (53チーム)	滋賀県立彦根球場	【両翼】99m 【中堅】122m	収容人員:10,000人	屋内練習所, ブルペン, バットスイング室	あり (バックネット)
	皇子山野球場	【両翼】100m 【中堅】122m	収容人員:15,200人	-	あり (バックネット)

・近隣府県の高校野球予選は、収容人数が2,000人～程度の野球場で開催されている。府下レベルの広域大会において利用できる規模を想定した場合、2000人～3000人程度の定員確保が必要である。

(5)府立施設の状況と今後の改修・整備構想

1)山城総合運動公園

■施設配置



■施設概要

- ・第1野球場(面積:14,100㎡, 観覧席:8,000人)
- ・第2野球場(面積:5,116㎡, 観覧席:芝生法面700人)
- ・第3,4野球場(面積:10,620㎡, 観覧席:芝生法面600人)
- ・第5野球場(面積:3,970㎡, 観覧席: -)
- ・陸上競技場(第2種公認, 面積:21,980㎡, 観覧席:7,000人)
- ・第2競技場(面積:15,780㎡, 観覧席: -)
- ・球技場A(面積:10,496㎡, 観覧席: -)
- ・球技場B(面積:10,496㎡, 観覧席: -)

■京都スポーツヒル構想(案)～山城総合運動公園スポーツ施設改修整備計画～

現施設の特長を生かし、引き続き府内の幅広いスポーツ活動拠点として、施設の維持・向上を目指している。

【整備ポイント】

- ①スポーツに親しみやすい環境の整備(陸上競技場の夜間照明, クラブハウスの新設・更新等)
- ②安心・安全なスポーツ環境の整備(陸上競技場の屋根設置等)
- ③新しいスポーツニーズへの対応(フットサル, グラウンドゴルフ等)
- ④防災拠点としての活用(支援物資保管所, 防災活動スペース等)

2)丹波自然運動公園

■施設配置



■施設概要

- ・陸上競技場(第3種公認, 面積:28,800㎡, 観覧席:1,100人)
- ・補助競技場(面積:22,300㎡, 観覧席:芝生法面)
- ・球技場(面積:17,600㎡, 観覧席: -)
- ・軟式野球場(面積:22,200㎡, 観覧席: -)

■京都トレーニングセンター構想(案)

～丹波自然公園スポーツ施設改修整備計画～
宿泊施設等を有する特長を生かし、ジュニアアスリート(中高生)育成拠点を目指し、京都トレーニングセンター(仮称)等を整備。

【整備ポイント】

- ①ワンストップのトレーニング環境の整備(トレーニング機能等と宿泊の一体化)
- ②機能的なトレーニング環境の整備(夜間や雨天練習環境の整備等)
- ③専門的なトレーニング環境の整備(指導体制の充実等)
- ④防災拠点としての活用(支援物資保管所, 防災活動スペース等)

■施設稼働率(平成24年度)

・陸上競技場

分類	稼働率
平日	73.0%
休日	100.0%

・第2競技場

分類	稼働率
平日	36.0%
休日	99.0%

・球技場(A, B)

分類	稼働率
平日	25.8%
休日	91.0%

・野球場(第1～5)

分類	稼働率
平日	35.8%
休日	94.6%

■施設稼働率(平成24年度)

・陸上競技場

分類	稼働率
平日	47.0%
休日	93.0%

・補助競技場

分類	稼働率
平日	42.0%
休日	95.0%

・球技場

分類	稼働率
平日	30.0%
休日	93.0%

・軟式野球場

分類	稼働率
平日	13.0%
休日	85.0%

・人口比に比べ南部地域の方が、北部地域に比べて十分な座席の確保された野球場が少ない。
(野球場:北部64席/千人, 南部13席/千人 競技場:北部30席/千人, 南部15席/千人)

(6) 上位関連計画

1) スポーツ関連計画

① 京都府スポーツ振興計画(仮称)(2014 年)

同計画最終案では、スポーツ振興の柱の一つに、「スポーツ拠点の整備」を掲げている。

「夢・未来」スポーツ拠点の整備

・目標:「青少年の夢やあこがれとなり、府民の誰もが親しみの持てるスポーツ施設の整備を進めます。」

・また、具体的施策の一つに、市町村によるスポーツ施設整備への支援が掲げられている。

「広域的な役割を持つ市町村スポーツ施設整備への支援～市町村が広域的・基幹的、準広域的・準基幹的スポーツ施設を整備する際に支援を行い、幅広いスポーツ施設の整備を行います。」

※「広域的スポーツ施設充実支援事業補助金交付要綱等」(2013 年制定)

○趣旨:府内のスポーツ施設(設備含む。)の充実を図るため、スポーツ施設の機能向上のために市町村が行う整備経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付する。

○対象施設

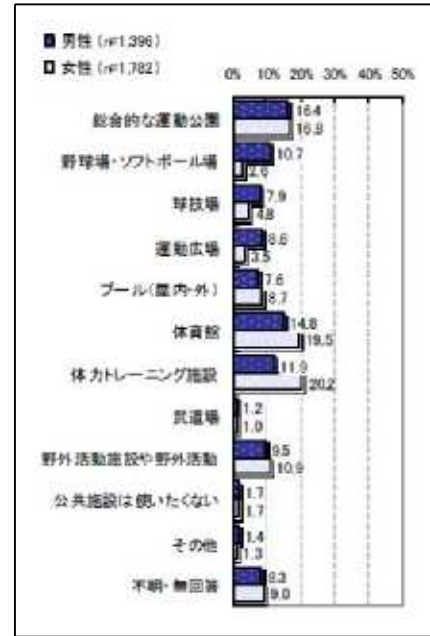
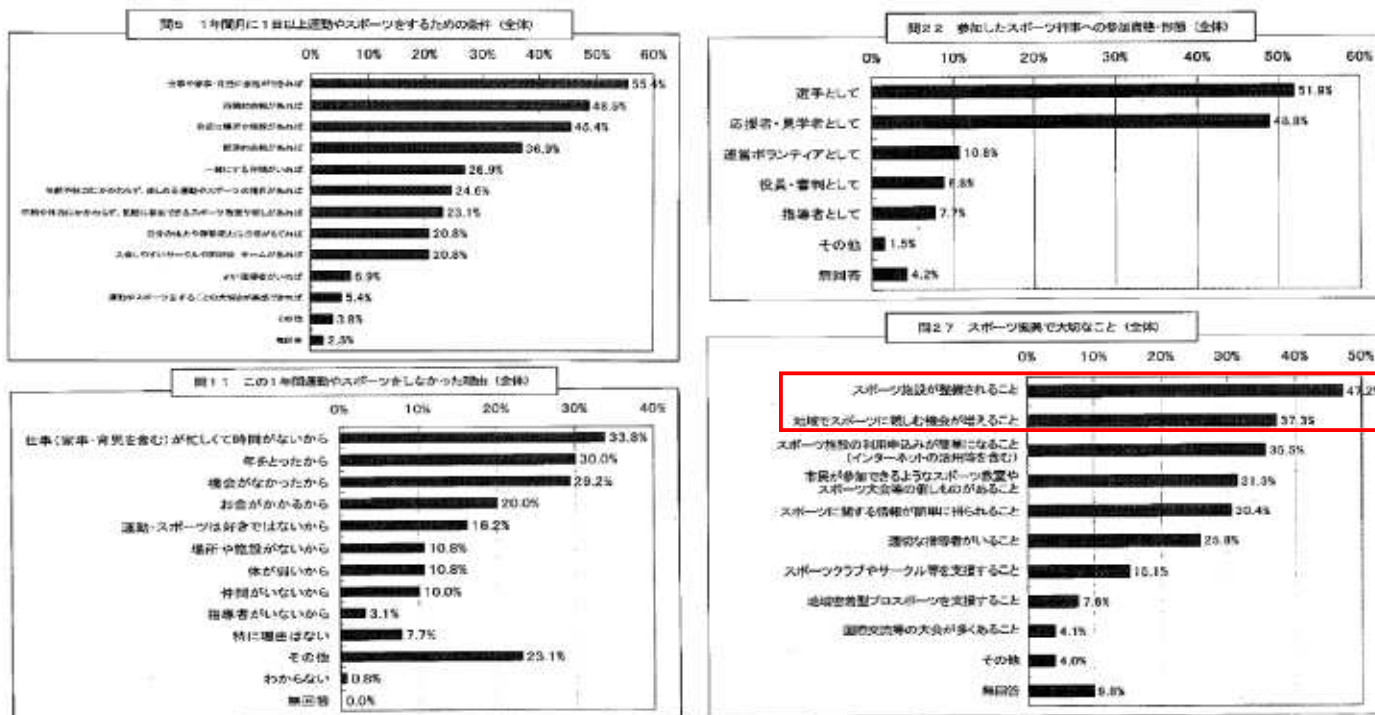
- ・広域・基幹的施設の新設・改修(府全域からの利用が見込め、国際・全国的な大会開催が可能な施設。補助率=1/2)
- ・準広域・準基幹的施設の新設・改修(ア. 広域局等のブロック単位での利用が見込め、公認大会開催等が可能な施設。イ. 知事が特に必要と認める施設。補助率=ア. 1/3, イ. 1/2)

② 京都市市民スポーツ振興計画～スポーツの絆が生きるまち推進プラン～(2011 年策定)

「だれもが、いつでも、どこでも、いろんなかたちでスポーツに親しめる環境を、みんなで支えあう『スポーツごころ』を結ぶまちづくりを進め、今後10年間の市民スポーツの振興を図る総合的な計画として策定。「みるスポーツ」の振興を図る施策の中で「国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応した施設の充実」「国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応したバックアップ機能の充実」などが挙げられている。

<市民のスポーツに関する意識・活動状況調査報告書(2010 年)>

- ・運動やスポーツをするための条件の一つとして、「身近に場所や施設がある」ことが挙げられている。
- ・スポーツをやらない理由の一つとして、「運動やスポーツをする機会がない」ことが挙げられている。
- ・スポーツを振興させるために大切なことは、「スポーツ施設が整備されること」、「地域でスポーツに親しむ機会が増えること」と考えている人が多い など



「京都府民のスポーツに関する調査(平成24年)より利用したい公共スポーツ施設

2) 地域防災計画

① 京都府地域防災計画(2012 年)

■ 都市公園の位置付け

災害時に避難場所、緩衝緑地等の機能を有するとともに、防災活動の拠点となる施設である。

※山城総合運動公園、丹波自然運動公園とも再整備に合わせ防災面の機能強化が予定されている。

■ 広域防災拠点の機能

- ・防災関係機関等の活動拠点
- ・ヘリポート機能
- ・現地調整本部機能
- ・物資等の集積・集配機能
- ・広域防災活動拠点活動維持・継続のための機能

② 京都市地域防災計画(2013 年)

京都市地域防災計画には、都市安全空間(オープンスペース)計画として、広域避難場所となる防災公園の整備、地域の集合場所となる防災公園の整備などが示されており、横大路運動公園については、「広域避難場所」として、また、災害時に物資を搬送する災害物資搬送拠点の候補地として位置付けられている。

京都市備蓄計画(案)の検討(2013 年)

東日本大震災における備蓄物資の配送等における課題を踏まえ、京都市の備蓄計画のあり方について検討を行っている。各家庭・事業所等での備蓄を原則としつつ、公的備蓄についても充実を図る方向で、従来の拠点備蓄体制から、今後は避難者に対してより迅速に備蓄物資を供給するため、分散備蓄体制を基本方針として掲げている。備蓄倉庫についても優先順位を付けて整備を進める予定である。

3) 都市計画・まちづくり計画等

① 京都府都市計画マスタープラン(2007 年)

横大路運動公園及びその周辺地域は、「工業地区」として位置付けられており、都市基盤の整備や産業機能の誘導が求められている。



② 京都市都市計画マスタープラン(2012 年)

横大路運動公園の位置する横大路地域は、「住・農・工が適切に共存する環境の維持を図る地域」として位置付けられている。

横大路運動公園においては、都市への新たな魅力となるスポーツレクリエーション等の拠点を充実させることで、市民の健康と交流を育む場と考えられる。



③ 伏見ルネッサンスプラン(2007 年)

京都の南の玄関口と言える横大路地域の再生を目指し、地域、企業、京都市が協働して進めるまちづくり計画として策定。横大路運動公園や南部クリーンセンターを含む地域は「産業・環境教育地区」に位置付けられている。

【産業・環境教育地区の取組の方向性】

- ・環境関連施設の改善、高度化と環境教育のメッカの形成
- ・地区の総合的整備と施設の相互連携による先端的環境・防災研究ゾーンとしての発信
- ・市民に開かれた空間づくり



3 整備方針(案)

横大路運動公園の現状等を踏まえ、府内の準広域・準基幹的スポーツ施設として再整備を図るための基本方針及び整備項目を以下に整理する。

現状・課題

【府内の広域的スポーツ施設の状況】

●府南部において、広域的な大会利用ができる野球場が不足している。

- ・京都府南部地域は、人口比では、府北部地域に比べ、観客席を有する野球場が少ない。
- ・京都市内でも、わかさスタジアム京都が非常に過密な稼働状況であり、利用団体アンケートにおいても、大会・公式戦が開催できる野球場の充実が望まれている。

【横大路運動公園の現況・課題等】

●準広域的な大会利用が可能な規模・立地特性を有する

- ・大規模で複数面の野球場を持つ運動公園として(面積 163,000 m²)、各種野球大会などで利用されている。
- ・また、京都市南部に位置する特性上、京都市民だけでなく、府域南部の市町のチーム等にも利用されている。

●利用の大半を占める野球場の機能向上と新たなスポーツ施設の導入が望まれる。

- ・一方、ベンチ、スコアボードがないなど、野球場としての利用環境は不十分であり、さらに、大会用には管理諸室等の整備が必要である。
- ・また、京都市南部の貴重な大規模運動公園として、野球・ソフトボール以外でも利用できる多目的グラウンドの導入など、準広域的利用が図れるような運動公園としての再整備が望まれる。

●広域防災拠点としての役割・機能の導入が望まれる。

- ・横大路運動公園は、既に京都市の地域防災計画「広域避難場所」、「災害物資搬送拠点の候補地」として位置付けられており、近隣には消防ヘリポートも位置するなど、災害時には防災活動拠点としての役割が期待されている。
- ・横大路運動公園に新たな広域防災機能を導入することで、府が再整備に合わせ防災機能の強化を予定している山城総合運動公園や丹波自然運動公園とともに、府内の広域防災の機能強化に資することができる。

上位関連計画など

●広域圏のスポーツ施設の充実・整備に向けて

- ・京都府、京都市それぞれのスポーツ振興計画において、「広域的・基幹的スポーツ施設の整備・充実」や「国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応した施設の充実」等が挙げられている。
- ・山城総合運動公園(スポーツヒル構想)、丹波自然運動公園(トレーニングセンター構想)の再整備、また、広域的スポーツ施設充実支援事業補助金の創設など京都府においても府内の広域的なスポーツ施設整備に向けた取組が進められている。

整備方針

災害時の広域防災拠点としての機能付加を含め、京都府内の運動公園として準広域・準基幹的な利用が図れるよう、府市協調により、硬式野球場(防災備蓄倉庫を含む。)や多目的グラウンド、園路、駐車場の整備を行う。

整備内容

1. 府内の広域大会・公式戦が可能となる硬式野球場の整備

- ・わかさスタジアム京都のバックアップ施設となるよう観客席のある硬式野球場を新たに整備
- ⇒高校野球予選会場等として利用できる水準を想定



観戦用スタンド
(イメージ)



スコアボード
(イメージ)



大会本部室
(イメージ)



更衣室・シャワー
(イメージ)

硬式野球場1面の整備

- ⇒観戦用スタンド 2000～3000 人程度の整備
- ⇒諸室(本部室、放送室、更衣室、シャワー、審判控室、トイレ等)の整備
- ⇒スコアボード、夜間照明の整備

2. 多目的グラウンド及び園路・駐車場等を整備し、準広域・準基幹的運動公園として運用

- ・市民・府民が身近にスポーツに親しめるよう野球、ソフトボールに加え、サッカー等も可能な多目的グラウンドを整備
- ・準広域・準基幹的施設として多くの利用者を受け入れるための園路・駐車場等の付帯施設を整備
- ・再整備後は、より多くの市民・府民が利用できるよう施設予約システムの運用改善を図る。

※現在の予約システム: 事前抽選予約は京都市民のみ対象。その他府民は事前抽選予約以降の一般予約から申込み可。



多目的グラウンド
(イメージ)



園路整備
(イメージ)



駐車場
(イメージ)

多目的グラウンド1面(第3グラウンド)の再整備

- ⇒ソフトボール、軟式野球、サッカー等
- ⇒簡易スコアボード、ベンチ等

駐車場・駐輪場、園路等の整備

施設予約システムの改善

3. 広域防災拠点としての機能導入

- ・硬式野球場スタンドを活用した防災備蓄倉庫、災害時にヘリポートとしても利用できる多目的グラウンドの整備のほか、本公園が災害時の防災拠点としての機能を果たせるよう園路、駐車場等を整備



防災備蓄倉庫
(イメージ)

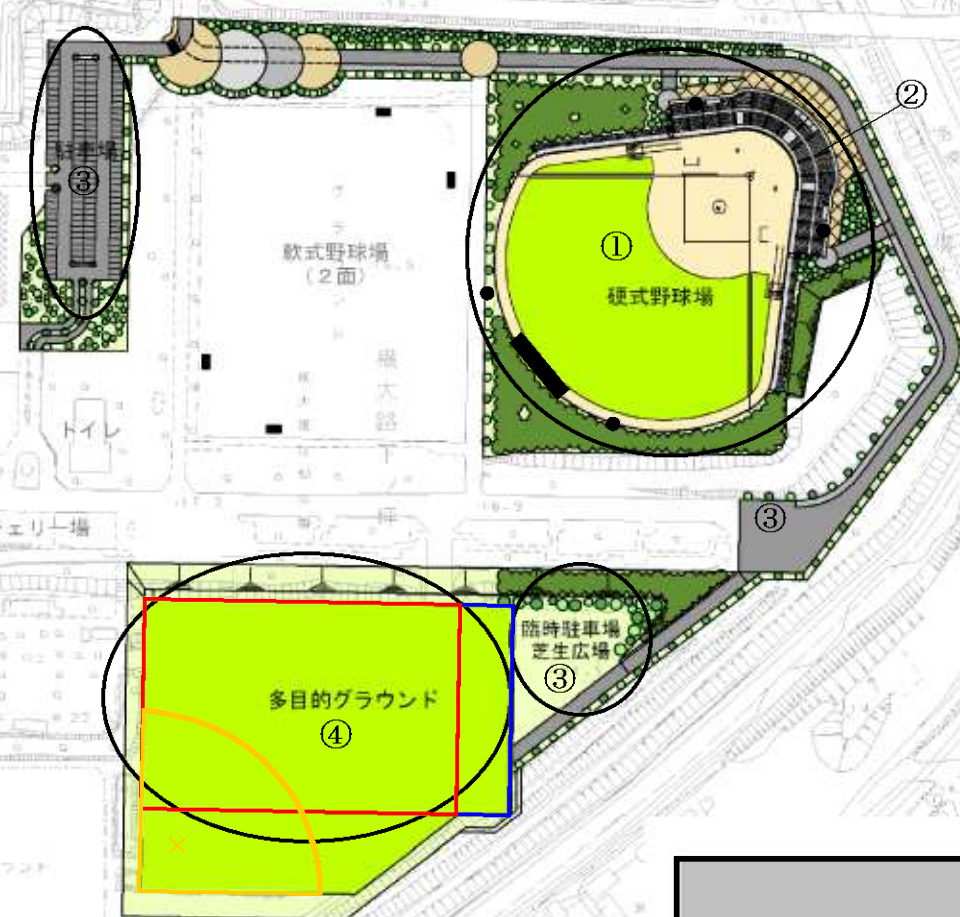
防災備蓄倉庫等の整備

4 整備実施計画(案)

＜府市協調で進めるスポーツ施設整備として、平成 26 年度予算で協議が整った項目＞

整備イメージ

横大路運動公園については、災害時の広域防災拠点としての機能付加を含め、京都府内の運動公園として準広域・準基幹的な利用が図れるよう、府市協調により、硬式野球場（防災備蓄倉庫を含む。）や多目的グラウンド、園路、駐車場の整備を行う。



— 野球(軟式)
— サッカー
— ラグビー

※多目的グラウンドをはじめ、各施設の位置は、地質調査、基本設計等の中で変更する場合がある。

■整備イメージ写真

① 硬式野球場 1 面：公式大会対応

＜スコアボード、スタンド 2,000～3,000 人程度、管理・運営諸室（本部室、更衣室、審判室等）、トイレ、夜間照明等＞

硬式野球場スタンド



大会用の管理諸室、シャワー



スコアボード



② 広域防災拠点（スタンドを活用した備蓄倉庫）

＜スタンドを活用した広域防災拠点機能の導入（備蓄倉庫）＞

スタンドを活用した防災備蓄倉庫



トラック荷台の高さに合わせたエプロン設置



③ 園路、駐車場等整備

硬式野球場に必要な附属施設として、また、本公園が災害時の防災拠点としての機能を果たせるよう園路、駐車場等を整備



④ 多目的グラウンド 1 面＜簡易スコアボード、選手用ベンチ等＞

災害時のヘリポート利用等、防災拠点としての機能を考慮し整備。

サッカー等



野球、ソフトボール



市民も市民以外の府民も同条件で利用できるように予約システムを見直す。

- ・現 状：事前抽選予約（市民のみ）
→空き枠の先着順予約（市民・府民）
- ・見直し後：事前抽選予約（市民・府民）
→空き枠の先着順予約（市民・府民）

	H26 年度予算 (2014)	H27 年度概算 (2015)	H28 年度概算 (2016)	H29 年度概算 (2017)	H30 年度 (2018)
硬式野球場(スタンド、管理諸室等)	基本設計 ＜27,000 千円＞	実施設計 ＜62,500 千円＞	工事着工	工事、竣工	＜1,811,600 千円＞
防災拠点(備蓄倉庫)					
園路、駐車場等 (硬式野球場附属施設)					
多目的グラウンド1面					
市単独事業 土壌調査、影響評価等 ＜43,000 千円＞					
					総事業費 1,944,100 千円

※H27 年度以降は現時点の概算であり今後変動する場合もある。